



2024

年次報告書

2024.4.1~2025.3.31

Annual Report

医療を止めない— 世界でも、日本でも。

「医療の届かないところに医療を届ける」

ジャパンハートのミッションは、開発途上国に医療を届ける
だけではありません。

被災地や離島など、医療の届きにくい場所は日本国内に
も存在します。

特に災害の多い日本では、災害医療支援のニーズが高
まっています。

いつ起こるか分からない災害から、“命”はもちろんのこと、
一人ひとりの“人生”や“心”を救うために—

私たちは世界にも日本にも、必要とされる場所に医療を届
けてまいります。



Vision ビジョン

すべての人が、生まれてきて良かったと思える世界を実現する。

Build a world where everyone can be grateful
for the gift of life.

Mission ミッション

医療の届かないところに医療を届ける。

To deliver healthcare to medically-isolated areas.

私たちは、出会えた一人ひとりの輝く人生のために、
治療を超えた医療の可能性を追求し続けます。



Japan
Heart

ジャパンハートは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ジャパンハートは、誰もが「生まれてきて良かった」と思える社会を実現するため、医療・福祉分野をはじめ様々な活動を実施しています。私たちは、子どもたちの未来のために「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」の達成に貢献します。この報告書では、紹介する各プロジェクトに関連したSDGs目標のアイコンを併記しています。

CONTENTS

ジャパンハートのビジョンとミッション	
SDGs 達成への貢献/目次	2-3
吉岡秀人 ジャパンハート最高顧問 メッセージ	
ジャパンハートのあゆみ	4-5
〈2024年度活動報告〉	
2024年度の活動ハイライト	6-7
ジャパンハートアジア小児医療センター 開設プロジェクトの道のり	8-9
カンボジア	10-11
ミャンマー	12-13

ラオス	14
メディカルチーム (MHR)	15
災害支援・対策 (IER)	16-17
地域医療支援 (RIKAjob)	18
スマイルスマイルプロジェクト	19
活動へのご支援/広報実績	20-21
ご支援いただいた企業・団体	22
会計報告	23



海外で医療をはじめて今年で30年になる。ちょうど30歳の時、たった一人で軍事政権下のミャンマーに入った。医者しかしたことがなかった私は右も左も分からず、様々な困難にぶち当たった。思う様に事が進まず、もう駄目かなあと思った時、私に望みを託し送り出してくれた日本の人たちの顔が脳裏に浮かんだ。彼らは私がミャンマーに赴く50年も前に、先の大戦で現地で身内を亡くしてしまった高齢の遺族会の人たちだった。二度とは会えぬ身内の慰霊の代わりに、医療も受けられず亡くなっていく現地の人々を救ってほしいと私に託してきたのだった。彼ら遺族の最後の願いを裏切ったり諦めたりできるわけもなく、ひたすら耐え忍び、何とか前に進み続けて今がある。

あの頃のミャンマーの首都ヤンゴンの空は本当に青かった。

ミャンマーは今、私の想像を超えて医療崩壊している。続く内戦のため人々は村が焼けて家がなくなり、着の身着のまま何処かに身を寄せて生きている人々が多くいる。貧困や道路の封鎖などで病院に来るのも難しい状況だ。

そういえば昔、たった一人の患者を手術するためにミャンマーにもカンボジアにも行ったことがあった。私はその時も今も、そこに必ず行くことが私とその地域の患者たちとの約束なのだと信じてやってきた。今も現地向かう飛行機の中にいる。

私はこの30年で多くの仲間を得て、かつて私ができなかった難しい病気を治療できるようになった。かつては小児がんも

心臓病も私には全く刃が立たなかった病だった。ここへ辿り着くまでの道程は、常に日本では考えられないようなリスクを背負い続けなければいけなかった。その過程で経験した多くの痛恨の出来事は、今も私を掴んで離さない。けれどそれがなければ、今、生還している多くの子どもたちも存在していなかったと思う。私たちは結局、良いとこどりなどできないのだ。

誰もリスクなど負いたくないだろう。私だって同じ。ひとりの普通に生きてきた人間なのである。しかし誰かがそれを負わなければ明るい未来が来ないとしたら、先ずは自分がやるしかないのだろうといつも思っている。自分以外の人間に期待し過ぎるのは人生では禁物なのだ。

困難はいつも目の前にある。その時、こんな環境下でも何かできること、やれる道はあるはずだと必死に悩みながら半歩でも進む。その半歩はやがて一歩に変わり、その一足、一足がつながり、振り返ると道になる。顔は歪み、目はかすみ、足は痺れ、それはとてもスマートな姿ではないが、それでもとにかく前に進む。今日の一足がやがて未来の誰かの生命に変わるという希望があるならば、歩み続けなければならないのだろう。そこに人の生命の連続性を確信し、その連続性を強固にしていくことこそが、この世界と人間の持続性を確保していくことになる。

30年という時間は、多くの後悔を残しながら過ぎ去り、私も残りの時間を意識するようになった。前線で働く医療者たち、バックヤードを支える人々、そしてその全てを支えるドナーた

ち、何より私たちを求め、私たちの存在の意味を与えてくれる患者やその家族。全ての人々に感謝し、この系を最も美しく、最も安定した調和なる状態にこれから進めることが使命になっている。たくさんの人々を看送る組織だからこそ、人の命のその価値とその意味を最も高めていくことが必要だと信じている。

長く医療をやって気づいたことは、結局、私はひとりでは何もできないということで、何かを私が為したとき、それは私ではなく私とそこに連なる多くの人たち、多くのものごとの関係性と共有性が働いたということで、私はその中で私の役割を果たしただけに過ぎないということだった。

年年歳歳、身のほどを知り、知れば知るほどに他者の可能性を強く確信することになっている。これからもその多くの縁に期待と感謝をしつつ、前に進んでいきたいと30年目に改めて決意している。

まだまだ霧が深く視界が煙って未来が見えていない。もう少し前に進んでみたいと思う。

ジャパンハート最高顧問
ファウンダー
小児外科医

吉岡秀人

ジャパンハートのあゆみ

- 1995 吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始
- 2004 国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立
《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始
国際長期研修開始（現・メディカルチーム）
- 2008 《日本》東京事務局開設
《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始
《日本》僻地・離島支援（現・RIKAjob）開始
《日本》心の医療事業（現・スマイルスマイルプロジェクト）開始
NPO法人格取得
- 2009 《カンボジア》医療支援活動を開始
- 2010 《ミャンマー》養育施設DreamTrain開設
《ミャンマー》視覚障がい者医療マッサージ訓練センター開設
- 2011 《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始
12月、宮城県石巻「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設
《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始
「認定NPO法人」として認定を受ける
- 2012 大山健康財団賞受賞
- 2013 《ラオス》医療支援活動を開始
《フィリピン》台風30号緊急医療支援
- 2014 《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始
外務大臣表彰
沖縄平和賞受賞
- 2015 《ミャンマー》大洪水 緊急支援
《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始
- 2016 《日本》熊本地震 緊急支援
《カンボジア》AAMC（現・ジャパンハートこども医療センター）開院
大山激励賞受賞（河野朋子）
- 2017 保健文化賞受賞（厚生労働大臣賞／第一生命賞／NHK厚生文化事業団賞／朝日新聞厚生文化事業団賞）
《ミャンマー》小児生体肝移植プロジェクト開始
- 2018 《ミャンマー》ミャンマー国内初の小児生体肝移植成功
《インドネシア》スラウェシ島地震 緊急支援
- 2019 《カンボジア》「長沼給食センター」設立、患者への給食提供開始
《ミャンマー》口唇口蓋裂総合治療プロジェクト開始
第22回地球倫理推進賞（国際活動部門）、文部科学大臣賞 受賞
- 2020 《日本》令和2年7月豪雨を受け、熊本県で緊急支援
新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、クラスター発生施設などで医療支援を開始
国連UNIATF Award2020 受賞
- 2021 《日本》令和3年8月豪雨を受け、佐賀県で医療支援活動
《日本》全国初の要介護濃厚接触者隔離施設を沖縄県に設置
第69回 菊池寛賞受賞（吉岡秀人）
第5回 ジャパンSDGsアワード SDGs推進副本部長（外務大臣） 受賞
- 2022 大山激励賞受賞（神白麻衣子）
《日本》台風14号・15号 緊急支援
- 2023 《ミャンマー》小児がん治療開始
《ミャンマー》小児心臓病などの専門医療プロジェクト始動
《ラオス》小児がん治療プロジェクト始動
千嘉代子賞 受賞（吉岡秀人）
- 2024 《日本》能登半島地震 緊急支援
《カンボジア》アジア小児医療センター着工（2025年10月開院）
《日本》能登豪雨 緊急支援
国連UNIATF Award 2024受賞

2024年度ジャパンハート活動ハイライト



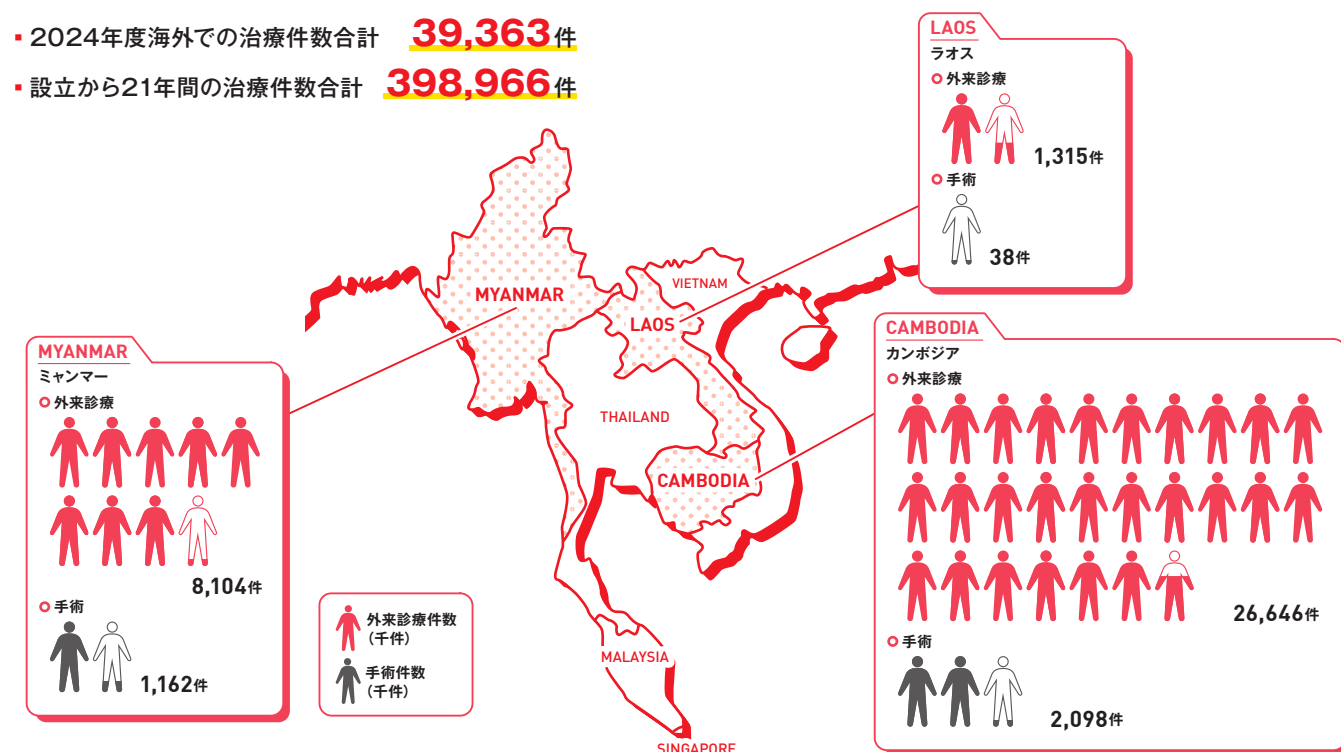
2025年10月開院 新病院「ジャパンハートアジア小児医療センター」着工式を実施

※完成イメージ

ジャパンハートの活動に共感し、協力してくださった皆様のおかげで活動を維持し、多くの患者さんに医療を届けることができました。

▶ 2024年度治療件数

- 2024年度海外での治療件数合計 **39,363** 件
- 設立から21年間の治療件数合計 **398,966** 件



2024

2025

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月



ジャパンハートこども医療センター 小児科部長の嘉数真理子医師が国際小児がん学会(SIOP)より、小児腫瘍学に貢献した女性リーダーの1人へ選出



ACジャパン支援キャンペーンがスタート



【iER】令和6年9月能登半島豪雨災害を受け、医療チームが輪島市に出動



【iER】近畿・中国・四国地方の災害支援強化に向けて岡山に新たな拠点を開設
※写真は岡山にて「災害用Heart Stock」バックアップしている様子



【ミャンマー】
ヤンゴン郊外に新たな医療拠点



【ラオス】小児がんプロジェクト
最初の患者さんサポート開始



【iER】高知県と「大規模災害時等の支援に関する協定」を締結



【iER】能登半島地震支援の新たな取り組みーおしゃべり喫茶開始



【カンボジア】
団体初の腹腔鏡手術を実施



ジャパンハート20周年セレブレーション「繋がる心、広がる医療」開催



国連から、非感染疾患による死亡減少に貢献したとして「UNIATF Award」2024受賞



【スマイルスマイルプロジェクト】
アツヴィ合同会社様によるバーチャルキャンプを初開催



【ミャンマー】
養育施設「Dream Train」の建替えプロジェクトが本格始動



日本手術看護学会との
パートナーシップ協定締結



個人支援者様のコミュニティ「ジャパンハート部」によるオリジナル無料絵本が完成

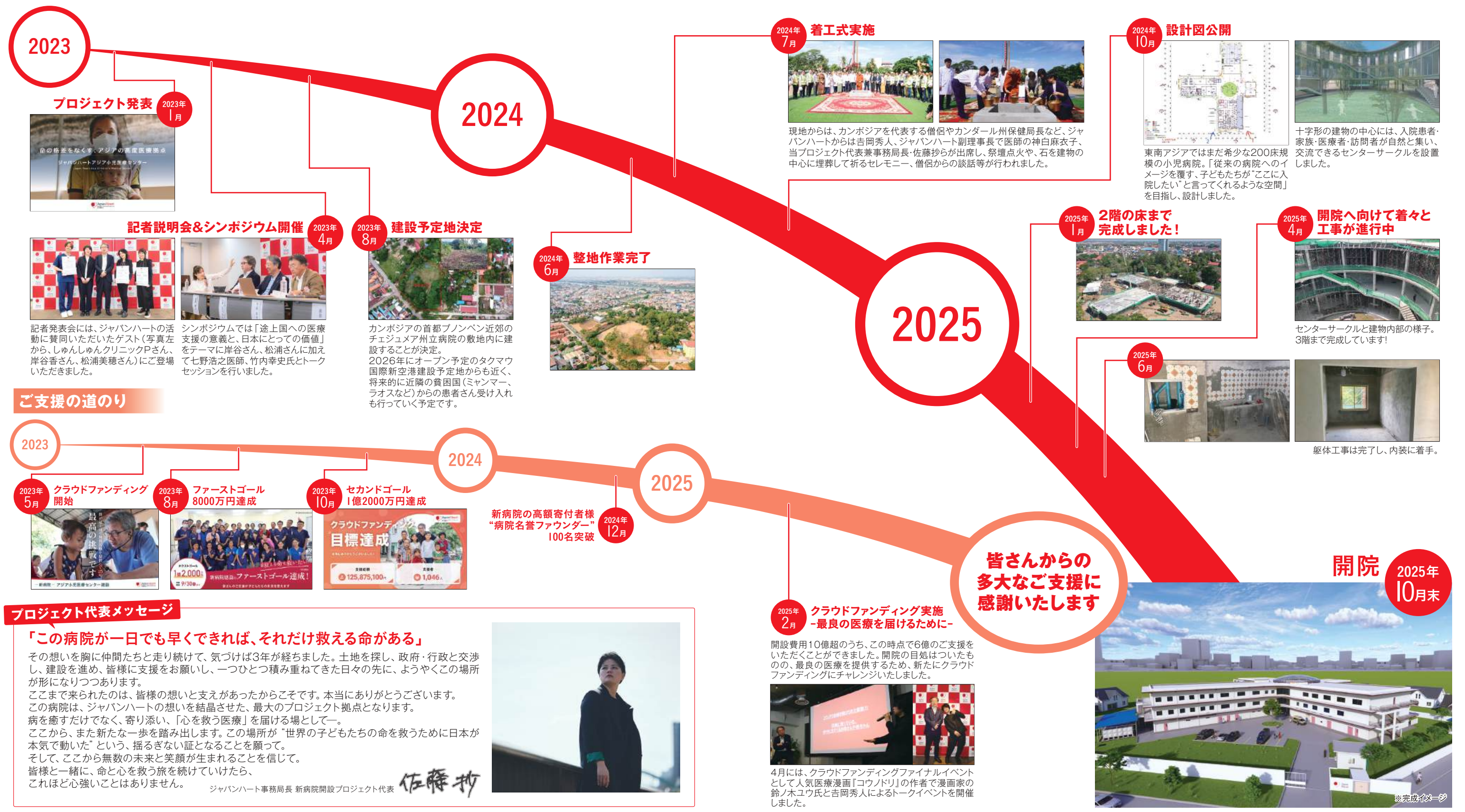


TOPICS

いよいよ2025年10月開院 ジャパンハートアジア小児医療センター 開設プロジェクトの道のり

ジャパンハートは「アジア全体のサバイバルギャップをゼロにする」をゴールに見据え、カンボジア・プノンペン近郊に新たな高度医療センター「ジャパンハートアジア小児医療センター」(以下、新病院)をいよいよ2025年10月末に開院いたします。
こちらでは2023年から始まった、新病院開設プロジェクトの2年半以上にわたる道のりを辿ります。

ジャパンハートアジア小児医療センター 新病院開設プロジェクトとは
ジャパンハートが強みとする小児がんにおいては、先進国と途上国の生存率が80%対20%と、サバイバルギャップが深刻な病気の一つです。このような医療格差をなくすためには、現在運営している「ジャパンハートこども医療センター」(カンボジア)よりもキャパシティが大きく、且つアクセスが良い新たな拠点が必要となるため、開設することを決めました。東南アジア圏を中心に、貧困層の病気の子どもへ無償治療を提供する小児総合医療センターとして開設し、「命の格差をなくす、アジアの高度医療拠点」を目指します。



ご支援の道のり



プロジェクト代表メッセージ

「この病院が一日でも早くできれば、それだけ救える命がある」
その想いを胸に仲間たちと走り続けて、気づけば3年が経ちました。土地を探し、政府・行政と交渉し、建設を進め、皆様に支援をお願いし、一つひとつ積み重ねてきた日々の先に、ようやくこの場所が形になりつつあります。
ここまで来られたのは、皆様の想いと支えがあったからこそです。本当にありがとうございます。
この病院は、ジャパンハートの想いを結晶させた、最大のプロジェクト拠点となります。
病を癒すだけでなく、寄り添い、「心を救う医療」を届ける場として。
これから、また新たな一歩を踏み出します。この場所が「世界の子どもの命を救うために日本が本気で動いた」という、揺るぎない証となることを願って。
そして、ここから無数の未来と笑顔が生まれることを信じて。
皆様と一緒に、命と心を救う旅を続けていけたら、
これほど心強いことはありません。

ジャパンハート事務局長 新病院開設プロジェクト代表

佐藤抄

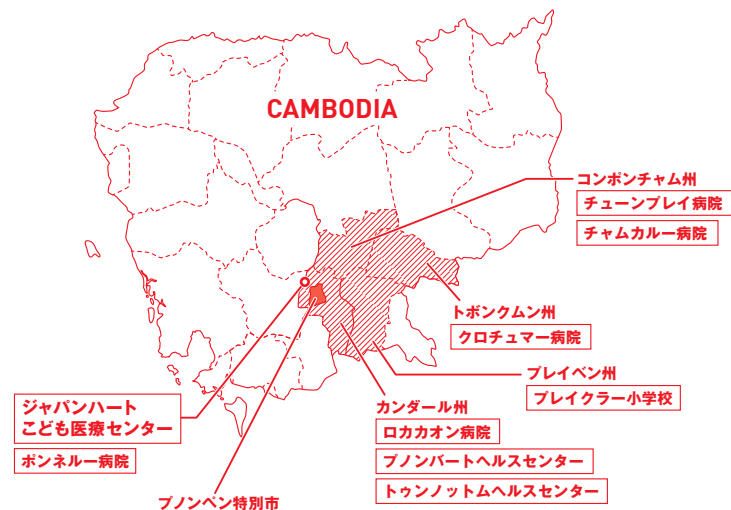




カンボジア

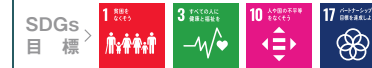
Cambodia

新病院開院に向けた確かな一歩
誰ひとり取り残さない医療を目指して。



20年に及んだ内戦の爪痕が
今もなお深く残るカンボジア。
知識人の大量虐殺により、
国連によると、当時残った医師は
わずか25名と言われている。
医師はもちろん医療機器などの数も不足。
1歳に満たない子どもが
年間約7千人も亡くなっている。

医療活動



外来診療数および手術件数ともに、前年度の実績を上回る結果となりました。成人の診療数は昨年に引き続き2万名台を維持し、小児の診療数も4,000名台に達しました。とくに、コロナ禍により手術を受ける機会を逃していた多くの方々への対応に注力した結果、24年度の成人手術件数は前年度(23年度)比で約161.2%と、約1.6倍に増加しました。現在、新病院の開院に向けた準備が着実に進むなか、現病院での医療提供に加え、地方病院での手術支援も継続しています。各スタッフが経験を積みながら成長を重ね、質の高い医療をカンボジア国内に広げる取り組みを続けています。



実績 【ジャパンハートこども医療センター】
診療:成人20,339件、小児4,006件
手術:成人1,596件、
小児335件(小児がん77件含む)
周産期:妊婦健診1,645件、分娩82件
【連携病院/出張診療】
外来診療:317件
手術:85件
周産期:妊婦検診 339件

活動地 ジャパンハートこども医療センター/
ボンネルー病院/クロチュマー病院/
チャムカラー病院/チュンブレイ病院/
ロカカオン病院/プノンバートヘルスセンター/
トゥンノットムヘルスセンター/ブレイクラール小学校

周産期医療



カンボジアは国民の平均年齢が若く、出生率も比較的高い状況にあります。しかしながら、周産期関連の指標は東南アジア諸国の中でも依然として低水準に留まっているのが現状です。特に、日本においては命の危険が及ばない出産においても、カンボジアでは母子の生命が脅かされるケースが報告されています。こうした背景を踏まえ、当団体は隣接する公立病院と連携し、地域の周産期医療の質的向上を目指した支援活動を継続的に展開しています。2024年度は隣接する公立病院への帝王切開技術の移転に向けた取り組みを進め、重点的に推進しました。今後は、帝王切開技術のさらなる定着と安全性の向上を図っていきます。

医療学生育成活動「夢の架け橋プロジェクト」



本プロジェクトは「自らの力で自国を立て直す」を理念に、地方の高校生が医学部・看護学部へ進学し、医師・看護師免許の取得を目指すことができるよう支援しています。支援対象は提携校から紹介され、家庭訪問で状況を確認したうえで、学力テストや面接により厳選された学生です。24年度は医師志望者4名、看護師志望者2名、計6名の学生が採択されました。現在、計22名の学生が本プロジェクトのもとで勉学に励み、将来の医療従事者としての夢の実現に向けて努力を続けています。本プロジェクトを通じて医療者となった者はいずれもカンボジアの医療の発展に寄与する重要な人材となっています。



栄養科



23年度までの活動を継続しつつ、24年度は得られた知見を活かし、栄養活動の定着を目指して他セクターとの連携を強化しました。小児がん病棟での給食提供や栄養教育に加え、一般病棟と周産期事業部と連携し、幅広い対象に支援を行いました。長期入院中の小児がん患者を対象に、子ども参加型のクッキング体験イベントを開催。楽しみながら学べる内容とし、参加した患者の食事摂取量の向上が見られました。さらに、妊婦健診や乳児健診の場を活用し、妊産婦への栄養指導や待機時間中の教育を実施。妊婦には砂糖や塩分摂取、貧血予防などを伝え、乳児には離乳食の進め方や食材選びの支援を行い、実践的なサポートにつなげました。

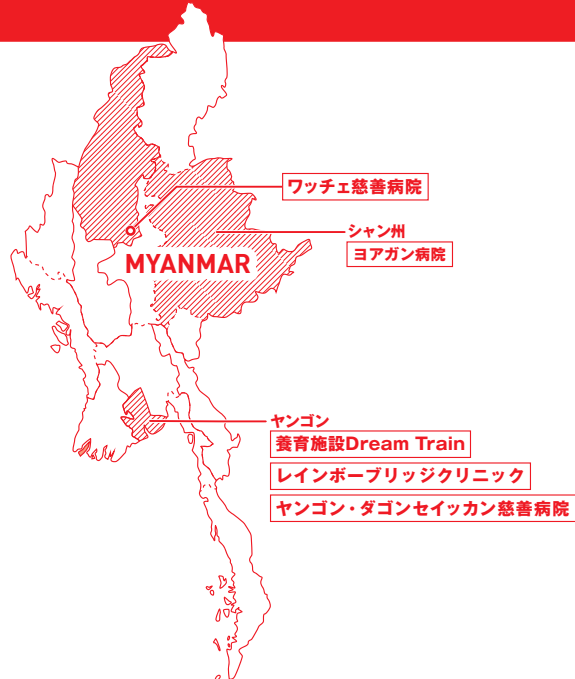




ミャンマー

Myanmar

困難があっても、命を救うための歩みを決して止めない。
共に乗り越えた先の笑顔に出会うために



2021年2月のクーデター発生以来、
医療従事者のボイコット活動により、
人々が必要な治療を受けられない
状況が続いている。
難民・国内避難民は150万人を超え、
子どもたちは学校に通うチャンスも
奪われている。

医療活動



軍事クーデターより3年以上経過してもなお国内情勢が安定する兆しはなく、国内紛争の激化や物価の高騰、そして頻発する停電や治安の悪化など、国民の生活にも大きな暗い影を落としています。そのような状況に加え、2024年9月には広範囲に渡る大規模な水害、さらに2025年3月末には大地震にも見舞われました。ミャンマーは引き続き、出口の見えない暗いトンネルの中を彷徨い続けています。

そして医療の状況も深刻です。多くの国民が頼りにしてきた国公立病院では、今もなお医療者不足によって十分な治療が提供できない状況です。一部の経済的に余裕のある人は私立病院や海外などで治療を受けることもできますが、多くは経済的理由で治療を諦めざるを得ないのです。

ワッチェ慈善病院では情勢悪化後も引き続き、経済的困難を抱えた患者さんたちに対して安全で安価な治療を提供するべく努力してきました。しかし内戦がワッチェ慈善病院のすぐ近くまで迫っており、手術治療期間を短縮したり、時には中止の判断をせざるを得ない状況にもなっています。治安の悪い道中をすり抜けてやってくる患者さんもありますが、病院まで辿り着けない患者さんもういるのが現状です。

そのような中でも、私たちは命を救うための歩みを止めることはありません。ワッチェ病院まで辿り付くのが難しい患者さんたちのために、2024年12月には最大都市ヤンゴンの郊外にも医療活動拠点を設け、現地医師たちだけで執刀可能な手術から活動をスタートしています。アクセスの良い拠点を設けることで、より多くの人々へ医療を届けることが可能になりました。また高度で専門的技術が必要となる子どもたちを一人でも多く救うため、日本から小児外科や小児循環器の専門家を招へいし、小児専門病院にて小児がんや心臓病などの子どもたち91名の手術も実施しました。

また口唇口蓋裂総合治療事業では、育成してきた現地医師たちがミャンマー各地の病院にて259名の手術を実施するなど、医療活動の拠点や分野を広げる形で、一人でも多くの命・人生を救うための挑戦を続けています。

※3/28に発生したミャンマー地震は、4月より医療活動を開始しているため24年度の本誌には掲載しておりません。



実績 ワッチェ：外来診療5,957件、手術748件
出張診療：外来診療345件、手術27件
レインボーブリッジクリニック：診療1,088件（11月開院）
ヤンゴン・ダゴンセイッカン慈善病院：診療714件、
手術37件（12月開院）
専門ミッション：口唇口蓋裂総合治療事業手術259件
小児外科手術61件
小児心臓病治療30件

養育施設 ワッチェ慈善病院、ヨアガン病院、レインボーブリッジクリニック（ヤンゴン）、その他政府系病院

養育施設 Dream Train（ドリームトレイン）



2024年度、Dream Trainは既存のザガイン管区、シャン州、エーヤワディー地方域、バゴー地方域に加え、カヤー州とタニンダーリー地方域から新たに17名を迎え入れ、在籍児童数は118名となりました。

教育面では大学進学希望者11名中5名が合格を果たし、私立校に通う9名が通年表彰を受賞しました。スポーツ分野でも槍投げ、400m走、サッカーにおいて3名がヤンゴン管区代表に選出されました。さらに、日本語学習においてはJLPT 3級に3名、4級に3名、5級に8名が合格するなど、子どもたちの挑戦と成果が着実に広がっています。

このような子どもたちの目覚ましい活躍の一方で、建物の老朽化や在籍数の増加による施設のひっ迫という課題は依然として残っています。2025年度は、子どもたちが学業やスポーツなどの様々な活動により一層打ち込み、安心して生活できる児童養育に適した環境を整えるため、既に老朽施設の建て替えに向けて新棟建設プロジェクトを始動しており、最優先課題として準備を進めています。

2025年3月の大地震ではヤンゴンへの大きな被害はありませんでしたが、情勢は依然として不透明です。そのような中でも、Dream Trainは子どもたちが安心して未来を描ける拠点であり続けるため、着実に一歩ずつ前進していきます。





ラオス

Laos

地域の人々を助けたいー
現地の医療者の熱意に支えられ、日々の挑戦は続く



ウドムサイ県
ウドムサイ県病院

LAOS

ビエンチャン特別市
国立子ども病院



2024年1月からビエンチャンで開始した小児がんプロジェクト。各地の医療施設を訪問しての広報活動や、パートナーである国立子ども病院外科チームをカンボジアのジャパンハートこども医療センターへ招いての研修、日本人医師によるオンラインレクチャーなど、着実に準備を進めてきました。医療機関の受診障壁が高いという背景もあり、子ども病院へ辿り着く小児固形がんの患者さんはまだ少ないものの、2025年2月には生後2カ月の腎芽腫の男の子に出会い、サポートを開始しています。2025年度に実施する初回の手術活動で、この患者さんの手術を行う予定です。

2024年の取り組みにより、子ども病院と協力してプロジェクトを推進する体制ができてきました。ラオスの小児医療を背負っているという強い責任感を持ち、真摯に医療に取り組む心強いパート



ナーです。また、広報活動の成果もあり、徐々に全国の患者さんの情報が集まり始めています。まだ始まったばかりの活動ではありますが、ラオスの子どもの未来のために、確実な一歩を踏み出した年になりました。

北部ウドムサイ県で実施している甲状腺プロジェクトは、3年間の活動のゴールを見据え、より高度な課題へ挑戦するステージに移っています。手術活動では、日本内分泌外科学会の先生方のご指導のもと、ほとんどの症例でラオス人医師が執刀医と第一助手の両方を務めるようになりました。ラオス人医師による3年間の目標執刀件数30件も既に達成し、指導内容は、より高度な安全管理など次の段階へ移行しつつあります。内科分野でも多種多様な患者さんに適切な治療を行えるよう、幅広い知識を身に付け、経験を積むことを目指しています。

このプロジェクトでは、地域の人々を助けたいと願うラオス人医療者の熱意に何よりも圧倒されます。プロジェクト期間中は残りわずかですが、彼らの熱意が大きな成果に繋がるよう、私たちは最後まで共に歩み続けます。

実績 診察1,315件、手術38件

活動地 ウドムサイ県病院
国立子ども病院（ビエンチャン特別市）

メディカルチーム MHR: Medical Human Resources



▶海外医療を支えるメディカルチーム本格始動

2025年10月カンボジア新病院開設を控え、メディカルチームの看護師、助産師、医師、及びコメディカル（薬剤師・臨床検査技師など）の海外派遣規模を拡大し、病院の立ち上げ準備や医療活動の即戦力、および現地人医療者育成の強化に取り組んでいます。メディカルチームには20代～60代の幅広い年齢層の医療者が所属し、それぞれの専門性や経験を活かしながら、現地スタッフと一緒に海外医療を支えています。

2024年度の運営面では、メディカルチーム全員が受講する海外渡航前のキックオフ研修を充実させ、マインドセットの醸成、現場課題への対応力の向上、さらにチームビルディングの強化に取り組みしました。また、メディカルチームを受け入れる各国間での情報共有と連携体制を整備することで、各プロジェクトに適した人材配置が可能となり、個々の強みや能力を最大限に発揮して現場への貢献につなげることができました。

なお、今年度はメディカルチームを修了した看護師2名が職員として加わり、現在はラオスにおける小児医療プロジェクト等の中核メンバーとして活動しています。



▶現地医療者の育成強化

カンボジア人看護師の能力向上と医療の質の底上げを目的に、看護師向け教育ラダーを作成し、運用を開始しました。さらに、現地のニーズに応じた勉強会の開催や個別フォローを実施することで、実践的な学びの機会と継続的なフィードバック体制を整備しました。また、感染拡大予防や術後合併症予防を目的とする、現地のワーキンググループに日本人も参加することで、現地の課題解決と現地スタッフ教育の双方を推進することができました。

▶OGOBネットワークの立ちあげ

メディカルチームに参加経験のある看護師たちによるOGOBネットワークを立ち上げました。このネットワークは、平時からつながりを築いておくことで、海外での医療活動や国内外の災害支援など、人員を要する際に迅速に協力体制を整えることを目的の一つとしています。

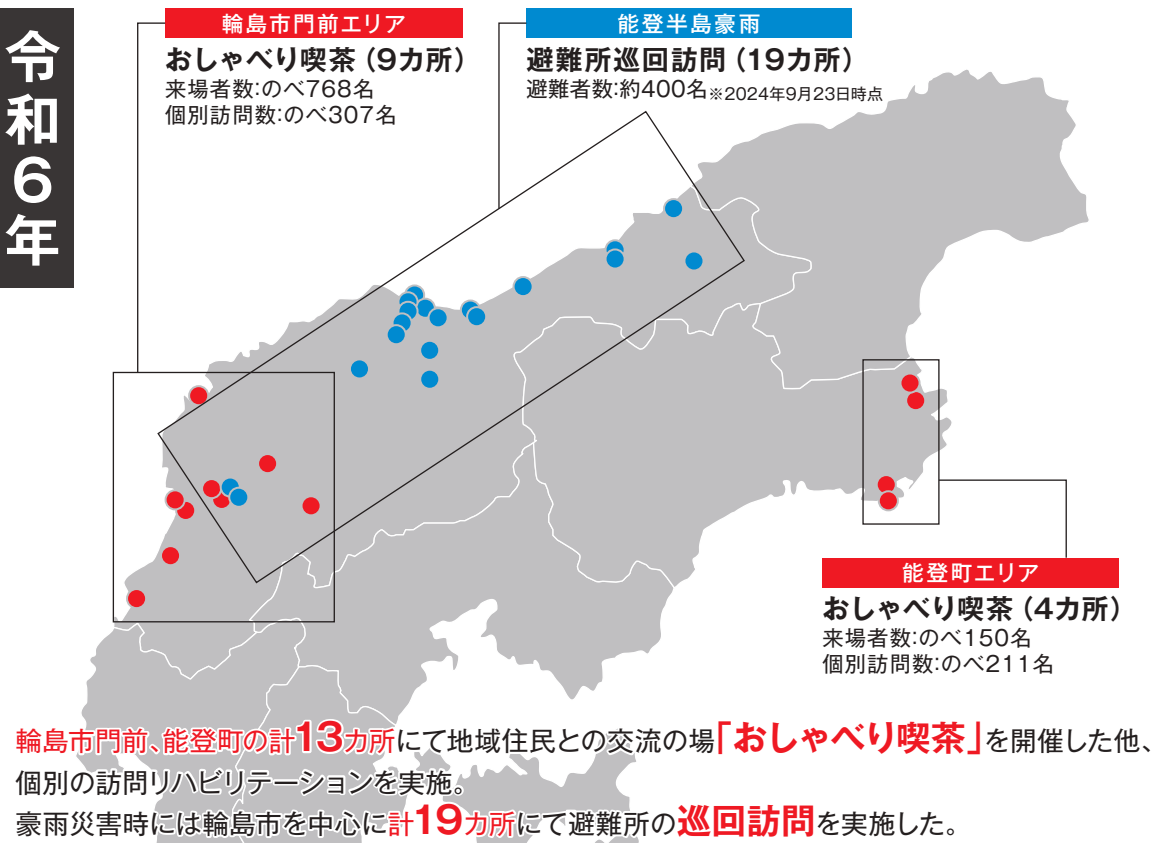
現在の登録者は38名で、2024年度には学会や各種イベントでのブース展示のサポートに加え、大学の国際看護学の講義において、海外医療活動の経験を持つ講師として登壇するなど、さまざまな場面で活動を展開しています。

実績 参加数（旧「グローバル看護師・助産師コース」、長期ボランティア含む）：
看護師 15名、助産師 5名、医師 4名、
臨床検査技師 1名、薬剤師 1名

活動地 国内：気仙沼市立病院／新庄徳洲会病院／
長崎県対馬病院
海外：カンボジア／ラオス／ミャンマー



令和6年 能登半島地震継続支援・ 豪雨災害緊急支援



災害支援・対策

iER : International Emergency Relief



▶ 令和6年能登半島地震継続支援・豪雨災害緊急支援

2024年1月1日に石川県能登半島で発生した「令和6年能登半島地震」を受け、1月4日から4月20日まで計7カ所の避難所および1カ所の診療所に対して看護師等常駐支援を行った他、輪島市門前地区においては15カ所以上の避難所巡回診療を実施しました。

常駐支援を撤収した後も、コミュニティの再構築と気軽な健康相談の場づくりを目的として、地域保健師と連携のうえ6月より輪島市門前8地区、9月より能登町2地区の仮設住宅集会



所にて「おしゃべり喫茶」と題した医療者を主体とするサロン活動を開始。住民の皆様からは「ここに来たことで久しぶりに知り合いに会えた。」「皆さんと会い、話をすることで気持ちが晴れて良かった。」などの声をいただいています。並行して訪問活動を行うことで、自主的には喫茶に参加が出来ない方にもアクセスし、医療的リスクの高い避難者の拾い上げを行っています。

また、9月21日から22日にかけて能登半島を襲った豪雨を受け、22日より被害の甚大であった輪島市内で避難所巡回支援を開始。輪島市保健医療福祉調整本部との連携のもと、市内19カ所の避難所に対し、初期調査と避難者の健康観察、保健衛生的な観点での環境整備を10月11日まで実施しました。今回の豪雨災害では、地震による斜面の崩落や土砂が堆積している状況での豪雨により、ハザードマップで洪水が想定されていなかった地域でも氾濫が発生。特に前述のサロン活動を実施していた輪島市門前の七浦や浦上地区では、トンネルの崩落による孤立や新設



された仮設住宅を含む家屋の浸水が発生し、再びの避難生活を余儀なくされた方々からの不安の声が寄せられました。

現在、能登半島では公営住宅の設置計画が進められており、ジャパンハートではサロン活動を通じた医療・保健に関する啓発などセルフケアの促進に加え、訪問リハビリテーションの展開によるADL(日常生活動作)低下の防止を目的とした取り組みを継続しています。

実績 サロン活動来場者数:のべ 918名
(2024年6月から2025年3月末)
個別訪問数:のべ 518名
(2024年6月から2025年3月末)

▶ 高知県との災害時包括支援協定

2025年3月、高知県と「大規模災害時等の支援に関する協定」を締結し、調印式を実施しました。本協定は、高知県内において大規模災害が発生した場合や感染症が流行した場合等における医療者の派遣についてあらかじめ必要な取り決めを行い、また平時からの訓練等における相互の緊密な連携と協力を推進することにより、被災現場の課題により迅速かつ適切に対応することを目指します。

▶ 岡山県への災害時拠点開設

2024年11月、近畿・中国・四国地方への災害支援強化を目的として岡山県岡山市北区に新たな拠点を開設しました。東京、佐賀、富山に続く4カ所目の災害時活動拠点として、医療資材の配置や支援物資の備蓄に加え、有事の際にボランティアやスタッフが全国各地から参集し、円滑に現場へ向かい活動ができるよう体制を整備します。

▶ iER登録ボランティア研修

第13回・第14回となる新規登録ボランティア研修に加え、既存登録者向けに3回のステップアップ研修を実施しています。また、2025年3月6日(木)～8日(土)に行われた日本災害医学会では、登録ボランティアによるサポートのもと、ジャパンハートの災害支援活動について発表を行いました。





※撮影地:沖永良部徳洲会病院



個別旅行で北海道を訪れたお子様。仲良しの弟さんとの2ショット

地域医療支援／RIKAjob



▶ 看護師のキャリア形成と地域医療に貢献

2018年始動のRIKAjob(リカジョブ)は、RIKAjobサイトを通して離島・へき地の病院情報を公開し、各地で働きたい看護師や助産師を繋げることによって地域医療を支えています。本事業では看護師のキャリア形成と地域医療の充実を両立させる新しい働き方を提案しています。

定期的な病院訪問や看護師との関わりを通じて、今年度は病院待遇の改善(時間外労働の短縮や福利厚生の調整)を強化。さらに、病院とともに広報強化を進めました。

RIKAjobが支援する病院では、0歳から100歳までの全ての年齢層への対応が必要な病棟配置となっており、多岐にわたる症例に対し柔軟な総合的なケアが求められます。これにより、看護師としてのアセスメント能力や総合力を身につけることが可能です。

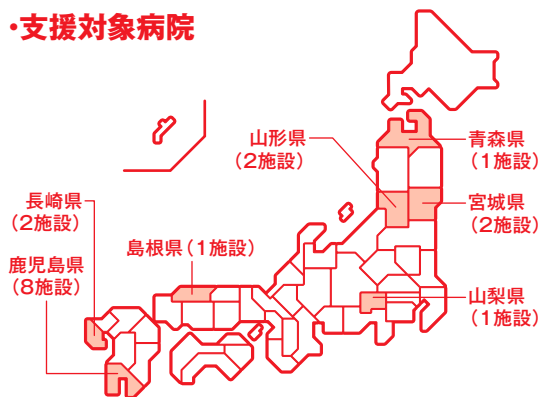
離島・へき地で働くことによって、救急医療、手術室看護、訪問看護、無医村診療など幅広い経験ができると同時に、医療者不足という深刻な課題を抱える離島・へき地の地域医療支援にも大きく貢献することができています。

▶ 災害支援スキームの活動実績と改善の実施

災害支援スキームは、平時はRIKAjobメンバーとして離島・へき地の病院で地域医療に従事し、有事にはジャパンハートの要請にもつき災害支援活動に参加する仕組みです。看護師や助産師が災害時に迅速かつ効果的に支援できる体制を整えることを目的としており、これまでに12名の看護師・助産師がこのスキームに参加しました。

2024年1月に発生した能登半島地震とその後の継続支援

・支援対象病院



※対象病院名は「RIKAjob」ホームページからご確認ください。

実績 連携病院: 17施設
マッチング数: 45名
(プロジェクト前身時代・2008年からの累計のべ 574名)

および能登豪雨においては、RIKAjobからのべ10名の看護師・助産師が複数回にわたり避難所常駐支援と仮設住宅サロン活動に参加しました。現地では、被災者の健康管理やメンタルフォローなどを実施し、地域の復興支援に貢献しました。

今年度は、災害支援スキームの活動による病院の実際の負担や想いの聞き取りを行いました。その結果、病院側の負担となっている部分について改善策を検討し、今後も継続して対応できるシステム構築を目指して調整を行いました。



スマイルスマイルプロジェクト



▶ 闘病中の子どもたちの「心を救う医療」で拡がる支援の輪

小児がんと向き合う子どもとその家族を対象に、医療者から離れることで不安を抱える旅行・外出を楽しむことができるよう、ジャパンハートの医師や看護師が付き添うことでサポートするスマイルスマイルプロジェクト。本年度は、のべ450名の子どもとご家族をサポートし、380名のボランティアにご協力いただきました。前年度の数字を大幅に上回る結果となり、プ

ロジェクト発足以来最多を更新しました。これからもさらに多くの支援を必要としている子どもたちへ活動が届けられたらと思います。近年右肩上がりの実績となっていますが、1件1件の依頼を大切に、「ケアの質」を大切に活動を継続していきます。

実績 1組の家族に付き添う個別企画: 54件
複数家族を招待する協賛企業によるイベント: 18件
サポートした子どもたちとご家族の人数: 450名
参加ボランティア数: 380名

👉 ご家族からのお便り

こっちゃん、生後9カ月の頃に最初の脳腫瘍になり、治療とリハビリを行ってきました。9歳になった頃には寛解を迎え、やっとこっちゃんの将来について前向きに考え始めることができた頃、その年の12月に二次がんを発症。悪性度の高い脳腫瘍と診断され、私たち家族の人生は一変してしまいました。抗がん治療を開始したものの、すでに余命宣告を受けており、こっちゃんとの残された時間をどのように過ごしていくかを葛藤している中、主治医からスマイルスマイルプロジェクトの話を聞き、すぐに電話で問い合わせをしました。

翌年2月と4月の2回、ディズニーシーに行くことができました。当日は終日大型バギーでの移動でしたが、私達が余計なことを心配せずにこっちゃんとディズニーシーを楽しめるように全面的にサポートをしていただきました。

ディズニーシーの旅から半月後に、こっちゃんは空へと旅立ちました。12月の余命宣告から5カ月足らずでの旅立ちとなりました。難しい病気を抱えているお子さんは治療のために我慢をしなければならないことが多く、そのご家族も色々なリスクを考えると行動を躊躇してしまいますが、看護師とホスピタリティ溢れるサポーターの皆様が帯同してくれるため、安心安全に家族の時間を過ごすことができました。皆様のご活躍は病氣と闘っているお子さんや我々のご家族の希望です。

心よりの感謝を込めて改めて御礼を申し上げます。



活動へのご支援

私たちの活動は、皆様からのご寄付によって成り立っています。
いただいた寄付金・募金は「医療の届かないところに医療を届ける」ため、大切にに使わせていただきます。

ジャパンハートは認定NPO法人です。 ジャパンハートにご寄付いただくと、税制上の優遇が受けられます。

所得控除と税額控除から、いずれか有利な方を選択することができます。
所得控除の場合、(寄付金額－2,000円)×40%の額が所得税から控除されます。
例えば3万円を寄付した場合、
(30,000-2,000)×40%=11,200円が所得税から控除されます(還付されます)。

ジャパンハートへのご寄付は、**紺綬褒章授与申請の対象**となります。
個人の方は500万円以上、法人は1,000万円以上のご寄付が申請の対象で、事前申請による分納も可能です。
詳しくは東京事務局(電話：03-6240-1564 メール：publicity@japanheart.org)までお問い合わせください。

継続的な寄付(マンスリーサポーター)

1日100円から、心を救う医療を届けることができます。

【ベーシックプラン】
3,000円/月

360名の子どもに抗生物質の
注射を打てます

【スタンダードプラン】
10,000円/月

小児がんの子どもに約4ヶ月分の
抗がん剤を届けられます

【プレミアムプラン】
100,000円/月

小児がん患者の子ども7名を
手術できます

※寄付の使途は例です。

- ▶オンライン決済(クレジットカード)
団体ホームページ「寄付をする」ページへ。
「継続的な寄付」を選び決済をお願いします。
- ▶口座からの自動引き落とし
電話、メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて口座
振替用紙をご請求ください。

継続的な寄付に
関するページは
こちらから▶



今回のみの寄付

関心のある課題、支援したい分野を選択してご寄付いただくことができます。

- ▶オンライン決済(クレジットカード)
団体ホームページ「寄付をする」ページへ。「今回のみの寄付」を選び決済をお願いします。
- ▶口座への振込み

お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀行名 ゆうちょ銀行
口座名義 特定非営利活動法人ジャパンハート
記号番号 00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀行名 ゆうちょ銀行
口座名義 トクヒ ジャパンハート
預金種目 当座
店名 ○九九店(ゼロキュウキュウ店)
店番 099
口座番号 0166806

遺贈での寄付

遺言書にすべて、または一部の財産の受取人としてジャパンハートをご指定いただく
ことで、大切な資産を未来のためにお役立ていただけます。
詳細資料をご用意しておりますので、以下までお問い合わせください。

※必要な手続きを取ること、税法上の特例措置が受けられます。
※実際の手続きを行う際は、弁護士などの専門家や、信託銀行などの専門機関への相談をお勧めします。

<お問い合わせ先>

東京事務局 遺贈担当 03-6240-1564 メール: izou@japanheart.org



ふるさと納税で寄付

ジャパンハートが事務所を構える佐賀県では、NPO団体を支援
する制度を実施しています。
ジャパンハートを指定して佐賀県にふるさと納税(寄付)をする
ことで、寄付額の85%がジャパンハートの活動に活用されます
(15%は県の事務費や県民協働の地域づくりに活用)。
ふるさと納税を利用した寄付金のうち、2,000円を超える部分
については、所得税の還付や住民税の控除が受けられます。
(一定の上限があります)

ふるさと納税での ご寄付方法

- 1 QRコードを読み込む
- 2 返礼品を選ぶ(返礼品なしのプランも有)
- 3 お名前・お支払い方法等を入力する

QRコード
または ジャパンハート ふるさと納税
で検索!



身近な物で寄付

ご家庭に眠っている物品の査定額がジャパンハートへの寄付になります。

- ①古本で寄付する：読み終えた本、DVD、CDなど。
- ②洋服で寄付する：使わないブランドものの洋服など。
- ③物品で寄付する：未使用切手や使わなくなったカメラや
携帯など。

※ご寄付いただく物の送付先は各協力事業者になります。
詳細は、団体ホームページ「支援する」ページからご確認ください。

ジャパンハートアドバイザーボード



本田 圭佑
挑戦者



吉田 正樹
株式会社ワタナベエンターテインメント
代表取締役会長



小松 成美
作家



樹林 伸
作家

アドバイザーの方々には、イベントへの登壇やさま
ざまな場面での広報協力などを通じて、私たちと
活動とをともにし、応援していただいています。



山田 進太郎
株式会社メルカリ
代表執行役CEO



望月 理恵
株式会社セント・フォース 取締役
フリーアナウンサー



松浦 美穂
TWIGGY 主宰
クリエイティブ・ディレクター



岸谷 香
ミュージシャン

メディア実績

これまでの主なTV出演

2009~11年 毎日放送「情熱大陸」計3回出演
2013年 NHK BSプレミアム「輝く女」
2014~19年 テレビ東京「未来世紀ジパング」計4回出演
内閣府テレビCM 出演
2017年 フジテレビ「あいのり Asian Journey」
2018年 テレビ東京系「世界ナゼそこに?日本人
~知られざる波瀾万丈伝~」
2020年 テレビ東京「カンブリア宮殿」
2020年 フジテレビ「石橋、薪を焚べる」
2022年 NHK BS1「最後の講義」
2023年 読売テレビ「グッと!地球便」

2024年度の主な実績

4月 東洋経済「子どもへの医療こそ、世の中で"最高の投資"だ」
5月 国際開発ジャーナル「2人の変革者が語る
イノベーションの起こし方」
9月 朝日新聞「小児がんの11歳、かなった家族旅行
『当たり前な願い』支援広がる」
12月 ログミー 吉岡秀人×榊淳×西井敏恭イベントレポート
1月 TBSラジオ 災害支援セクション部長・高橋茉莉子 出演
1月 読売新聞「展望2025 医師偏在 絶つヒント」
3月~ 日経メディカル 看護師連載

ほか、3月28日発生ミャンマー大地震直後におけるメディア出演多数
(テレビ朝日「有働Times」・TBS「Nスタ」・フジテレビ「めざましテレビ」・
読売新聞・毎日新聞など)

ジャパンハートは、企業・団体の皆様とお互いの特長を活かした協働によって、ともに「医療の届かないところに医療を届ける」活動に取り組んでいます。ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

▶2024年度のご支援事例



ダイワボウ情報システム株式会社

ダイワボウ情報システム株式会社

継続した活動全般へのご支援により、私たちの国内外の活動が力強く支えられています。現地で着用している同社のロゴ入りユニフォームが、従業員の皆様に社会貢献を実感いただくきっかけとなっている、との嬉しいお言葉も伺っております。



株式会社FPパートナー

「お客さまをお守りする」という経営理念と、私たちの医療支援活動が重なる部分にご共感いただき、2022年よりご寄付を開始。新病院への支援にも、社員の皆様を含め多くのご賛同をいただいています。



アクセンチュア株式会社

コロナ禍に同社の強みであるテクノロジーを活かした取り組みで支援を開始くださり、能登半島地震では、従業員の皆様による募金と企業としてのマッチング寄付により、緊急支援活動を力強く後押しくださいました。



世紀東急工業株式会社

ミャンマーにおける事業展開と日本でも多くのミャンマー人社員が在籍するという背景から、ミャンマーで医療・教育支援を行うジャパンハートの理念にご共感いただき、Dream Trainへのご寄付という形で温かいご支援をいただきました。



ICCパートナーズ株式会社

活動への深いご共感を起点に、チャリティイベントの開催や社員・関係者の皆様による現地訪問などを通して、直接的なご支援とともに、ジャパンハートの理念を広く発信するご協力もいただいています。



パナソニック ホールディングス株式会社

社内の福利厚生制度の一環で、社員の方が付与されたポイントを非営利団体などに寄付できる取り組みを実施されており、能登半島地震・豪雨災害における支援活動に対しご支援いただきました。



中外製薬株式会社

6年連続でカンボジアの医療活動に対し多額のご支援を継続してくださり、さらにスタッフ向けのワークショップの開催や新病院へのご寄付、講演会の開催など、ご支援は多岐に渡ります。



平原綾香 Jupiter 基金

以前よりチャリティーコンサートを通じて、ミャンマーの養育施設DreamTrainへのご寄付や、平原綾香さんに施設を訪問いただくなどの交流を続け、このたび能登半島地震に対する支援として多額のご支援をいただきました。



株式会社フクダ・アンド・パートナーズ

ジャパンハートがミャンマーで行っている、小児心臓病、口唇口蓋裂、小児がんといった小児の疾患に対する治療や技術移転活動にご賛同いただき、ご寄付を賜りました。



第一生命ホールディングス株式会社

カンボジア・ミャンマーでの事業展開を背景に、2019年よりご支援を開始。資金的支援に加え、医療物資のご提供など、支援内容は多岐に渡ります。



公益社団法人生命保険ファイナンスアドバイザー協会

同協会が運用する自然災害や未来ある子どもたちへの支援を目的とした「ハートフルファンデーション」基金から、スマイルスマイルプロジェクトの活動にご支援いただきました。



株式会社獺祭

経営者ツアーにご参加いただき、海外の活動地を訪問くださったことがきっかけでジャパンハートの活動に深く共感をいただき、新病院に対してのご支援をいただきました。



株式会社マザーハウス

途上国の素材や職人の技術に光をあてたものづくりを行う企業として、生産国の一つであるミャンマーへ、社会貢献ポイント制度「ソーシャルポイント」を通じ、ミャンマー地震への支援活動にご寄付をお寄せいただきました。



エイベックス・ヘルスケアエンパワー合同会社

同社が主催する小児がん支援チャリティーライブ「LIVE EMPOWER CHILDREN 2024」を通して得られた収益の一部を、スマイルスマイルプロジェクトへご寄付くださいました。



株式会社LOIVE

同社のホットヨガスタジオ「ロイブ」よりご寄付いただき、小児がんのお子様たちをキザニアにご招待、さらに社員の方もボランティアとしてイベントに関わってくださいました。



株式会社一休

代表取締役社長の榊様に理事としてご尽力をいただくほか、宿泊施設やレストランで使えるポイントの提供を通じて、スマイルスマイルプロジェクトの活動をご支援いただいています。



株式会社シンクロ

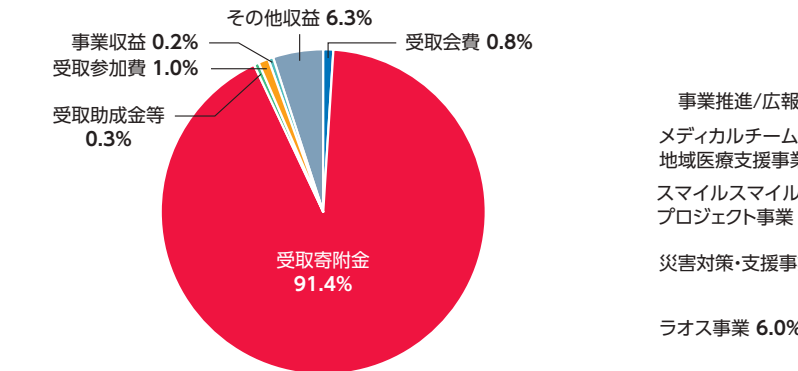
代表取締役社長の西井様には理事としてご尽力いただくほか、企業としてもマーケティング面での協力や視察ツアーの企画運営など、多方面から私たちの活動基盤を支えていただいています。

会計報告

▶2024年度 活動計算書

2024年4月1日～2025年3月31日			(単位:円)
科目		決算額	前年度決算額
Ⅰ 経常収益			
1 受取会費		15,545,000	17,236,000
2 受取寄附金・資産受贈益・受取役務寄附金		1,832,719,026	989,137,447
3 受取助成金等		6,490,000	75,808,555
4 受取参加費		20,530,721	36,912,412
5 事業収益		3,542,430	5,929,403
6 その他収益		126,330,345	111,067,135
経常収益計		2,005,157,522	1,236,090,952
Ⅱ 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費		357,173,994	269,246,570
(2)その他経費		416,771,714	299,847,576
旅費交通費		52,012,044	46,431,546
学業・子ども支援費		23,310,545	19,340,076
減価償却費		81,923,298	29,257,502
消耗品費		16,983,596	12,967,255
医療支援(医薬品、医療資材、検査、患者物品購入)・医療器具備品費		74,080,668	65,024,828
地代・家賃		13,885,252	12,498,714
広告宣伝費		36,908,168	13,199,305
その他活動に係る経費		117,668,143	101,128,350
事業費計		773,945,708	569,094,146
2 管理費			
(1)人件費		9,282,364	16,346,862
(2)その他経費		31,082,746	27,368,627
管理費計		40,365,110	43,715,489
経常費用計		814,310,818	612,809,635
当期経常増減額		1,190,846,704	623,281,317
Ⅲ 経常外収益			
固定資産売却益		-	-
前期損益修正益 (過年度コロナ対応派遣業務に係る入金)		-	-
経常外収益計		-	-
Ⅳ 経常外費用			
固定資産売却損		-	-
前期損益修正損(過年度コロナ対応派遣業務に係る原価)		-	-
過年度受取参加費返金等		150,000	900,000
控除対象外消費税等		-	-
経常外費用計		150,000	900,000
税引前当期正味財産増減額		1,190,696,704	622,381,317
法人税、住民税及び事業税		2,353,015	151,000
当期正味財産増減額		1,188,343,689	622,230,317
前期繰越正味財産額		2,164,303,747	1,542,073,430
次期繰越正味財産額		3,352,647,436	2,164,303,747

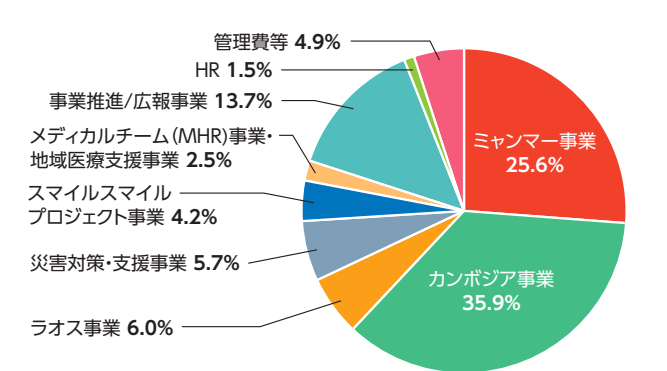
▶経常収益内訳



▶2024年度 貸借対照表

2025年3月31日現在		(単位:円)
科目		決算額
Ⅰ 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		1,533,430,315
棚卸資産		614,985
前払費用		4,236,471
未収金		10,471,084
その他		10,693,581
流動資産合計		1,559,446,436
2 固定資産		
土 地		406,029
建 物		210,268,808
建物付属設備		30,253,517
工具器具備品		757,038,320
ミャンマー土地賃借権		16,160,971
敷 金		2,529,299
建設仮勘定		760,089,445
投資有価証券		30,000,000
その他		17,494,457
固定資産合計		1,824,240,846
資産合計		3,383,687,282
Ⅱ 負債の部		
1 流動負債		
前受金		-
未払金		30,291,534
預り金		597,312
その他		151,000
流動負債合計		31,039,846
負債合計		31,039,846
Ⅲ 正味財産の部		
前期繰越正味財産		2,164,303,747
当期正味財産増減額		1,188,343,689
正味財産合計		3,352,647,436
負債及び正味財産合計		3,383,687,282

▶経常費用内訳(国別、事業別)



ジャパンハートが 大切にしている3つのこと

自分の人生と同じように、相手の人生を大切にする

私たちは、自他を信頼し、思い遣りの心を持ち、謙虚さを忘れず
感謝することこそが、互いの人生の価値を高めると信じます。



社会全体の幸福最大化を常に考え行動する

私たちは、社会の一員として、
今日よりよい明日を創るべく、向上心を持ち挑戦し続けます。



出会いを最高の価値あるものにする

私たちは、国、人種、政治、宗教など相手の境遇を問わず、
出会えたすべての人に対し一丸となって最善を尽くします。



Japan
Heart

特定非営利活動法人 ジャパンハート

お問い合わせ

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-10 1510ビル3階
TEL. 03-6240-1564 (平日10~17時) FAX. 03-3845-6530 E-mail : publicity@japanheart.org URL : <https://www.japanheart.org>

※本書の一部またはすべてを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。



Facebook



Instagram



X (旧Twitter)



LINE



YouTube